

2026年度入学生用
(令和8年度)

獣医学部要覧

教育目的・履修要項など



大阪公立大学 獣医学部

目次

I. 獣医学部の教育目的・教育目標	1
II. 履修要項	4
1. 学科の名称、入学定員、卒業時の学位	4
2. 学年・学期・授業期間等	4
3. 授業時間	4
4. 授業科目の種類	5
5. 授業科目の単位、単位制	5
6. 履修課程と履修上の注意	6
7. 科目ナンバリングのルール	10
8. 履修登録等	10
9. 成績評価・試験	11
10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制	12
11. 既修得単位等の認定	13
12. 定期試験受験心得	13
13. 成績評価についての異議申立	14
14. 休講・欠席について	14
15. 副専攻	15
16. 他大学との単位互換・単位認定制度	15
17. 転学部（学域）・転学科（学類）等	16
18. 前期終了時の卒業	16
19. 学籍について	16
20. 修学上の配慮・支援について	17
21. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入	17
22. 卒業研究履修資格（進級要件）	18
23. 卒業資格（卒業要件）	18
24. 各種資格（受験資格）	19
25. 生成 AI の利活用に関する学生向けガイドライン	19
26. 基幹教育科目（基礎教育科目を除く）履修課程表	20
27. 基礎教育科目履修課程表	21
28. 専門科目履修課程表	22

I. 獣医学部の教育目的・教育目標

■教育目的

獣医学部獣医学科では、動物と人、環境が共存・共栄できる社会の構築を理想と考え、これを達成するにあたり求められる具体的な論点として、動物の医療・福祉を向上させること、動物および人の病気の予防や健康の増進を目指すこと、環境の健全化に貢献できることを課題設定する。これら個々の課題を解決できる能力を有し、さらにそれを国際貢献および地域貢献に活かせる実践力を持つとともに、高い倫理観と応用力、協調性を備え持った、広く生命科学の発展に資する問題解決型の人材を養成する。

■教育目標

1. 自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養と高い倫理観を身に付ける。
2. 専門領域の以下の項目に関わる知識を有し、問題解決に応用できる能力を身に付ける。
 - (ア)細胞、組織から器官形成に至る動物の構造・機能
 - (イ)動物細胞を構成する要素の性状・役割、それらが統合して機能を発揮する仕組み
 - (ウ)食品・環境に由来する外的因子や薬物の生体への影響
 - (エ)病原体の特性と感染成立への理解、感染症の予防
 - (オ)動物の疾病の成因・修復機序、診断・治療・予防
3. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のために必要とされる情報収集と研究開発能力、得られた情報を社会に還元するために必要とされるプレゼンテーション能力を身に付ける。
4. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、動物と人との共生、環境との調和に貢献する能力を身に付ける。
5. 地域および国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力と協調性を身に付ける。

■ディプロマ・ポリシー

本学部では、動物と人、環境が共存・共栄できる社会の構築を理想と考え、動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力を、国際標準の教育手法に準拠して教授する。さらに、日々発展する生命科学の新しい知見と技術を追求めつつ新たな科学技術を開拓できる人材養成を目的として、研究開発能力とプレゼンテーション能力を教授する。これらにより、国際的に活躍できる実践力を有し、高い倫理観と応用力、協調性を備え持った、広く生命科学の発展に資する問題解決型の人材を養成することを、本獣医学部・獣医学科の教育研究上の理念・目的とする。
この人材養成の方針に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士(獣医学)の学位を授与

する。

1. 自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養と高い倫理観を身に付けている。
2. 専門領域の以下の項目に関わる知識を有し、問題解決に応用できる能力を身に付けている。
 - (ア) 細胞、組織から器官形成に至る動物の構造・機能
 - (イ) 動物細胞を構成する要素の性状・役割、それらが統合して機能を発揮する仕組み
 - (ウ) 食品・環境に由来する外的因子や薬物の生体への影響
 - (エ) 病原体の特性と感染成立への理解、感染症の予防
 - (オ) 動物の疾病の成因・修復機序、診断・治療・予防
3. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のために必要とされる情報収集と研究開発能力、得られた情報を社会に還元するために必要とされるプレゼンテーション能力を身に付けている。
4. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、動物と人との共生、環境との調和に貢献する能力を身に付けている。
5. 地域および国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力と協調性を身に付けている。

このような理念に基づき養成された人材は、獣医学の根幹をなす深い知識と科学リテラシーを身につけ、またそれに基づいて高度獣医療、食品の安定供給、新興・再興感染症、人と動物の共生などの諸問題を解決する知識、技術とコミュニケーション能力を有するものと期待できる。社会がますます多様化、複雑化することを受けて、上記課題解決能力に対する社会ニーズは今後も益々増大する中(日本学術会議提言「わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」、2017年3月)、国内に存在する限られた獣医師養成機関の1つとして、その需要を担う役割を果たすことが本獣医学部・獣医学科設置の責務であると考えられる。

■カリキュラム・ポリシー

学位授与に必要とされる能力(ディプロマ・ポリシー)を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。獣医学部での各専門科目の成績評価の方法は、科目の到達目標の達成状況を基準にした成績評価ガイドラインを定め、それに則した成績評価を行うこととし、その評価方法や基準については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。本学部で学ぶ学生が身に付けている学修成果を適切に把握するため、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って、アセスメントポリシーとアセスメントリストを定め、複数の評価指標・方法を用いて定期的に、本学部の教育カリキュラムの学修成果の評価を行う。以下が教育課程の編成方針である。

1. 自然科学一般、さらには人文・社会科学に至る教養を幅広く修得し、高い倫理観をもち、グローバルな視点から物事を考えることのできる素養と能力を養う。
2. 動物の生体諸機能を維持するための細胞、組織から器官形成に至る知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
3. 動物細胞を構成する様々な要素の性状・役割とその統合に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。

4. 食品・環境に由来する外的因子の生体への影響に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
5. 病原体の特性と感染症成立についての理解およびその予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
6. 動物の病態の成因・修復機序および疾病診断に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
7. 動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
8. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のための調査・研究の手技・手法を修得するとともに、ドキュメンテーションやプレゼンテーションの能力を培う。
9. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、その責務を果たすべく適切に行動する能力を養う。

Ⅱ. 履修要項

1. 学科の名称、入学定員、卒業時の学位

獣医学部の学科名称、入学定員および卒業時の学位は以下のとおりです。

学科	入学定員	学位
獣医学科	40	学士(獣医学) (Bachelor of Veterinary Science)

2. 学年・学期・授業期間等

学 年:4月1日～翌年3月31日

学 期:前期:4月1日～9月23日

後期:9月24日～翌年3月31日

休業日:

- ① 日曜日および土曜日(祝日授業日、授業調整日除く)
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- ③ 春季休業3月20日から4月7日まで
- ④ 夏季休業8月10日から9月23日まで
- ⑤ 冬季休業12月24日から1月7日まで
- ⑥ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。

学事日程は、毎年度、本学Webサイト([ホーム](#)>[教育・学生生活](#)>[授業・履修](#)>[学事日程・授業関係](#))などで確認してください。

ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3. 授業時間

時限	時間
1時限	9:00-10:30
2時限	10:45-12:15
3時限	13:15-14:45
4時限	15:00-16:30
5時限	16:45-18:15

4. 授業科目の種類

授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。

全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。

○科目区分および開設部局(特例科目を除く)

科目区分		開設部局	
基幹教育科目	総合教養科目	国際基幹教育機構	
	ゼミナール科目		プロジェクト
			高年次ゼミナール
			初年次ゼミナール
	情報科目		
	外国語科目		英語科目
			初修外国語科目
健康・スポーツ科学科目			
基礎教育科目			
専門科目		各学部・学域	
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構※	
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構	

(1) 専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由の区分は、履修課程表を参照してください。

(2) 基幹教育科目の履修については、「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」等を参照してください。なお、獣医学部においては、取得可能な教育職員免許はありません。

(3) 資格科目の履修については「教職課程の手引」、副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

※資格科目の授業科目は、国際基幹教育機構が開設するほか各学部・学域が開設する場合があります。

5. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法(講義・演習、実験・実習・実技)に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して

おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算します。また、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を算定します。

講義・演習、実験・実習・実技の場合

学修時間数	単位数
授業時間 30 時間(毎週 2 時間 15 週) 事前事後学修 60 時間(毎週 4 時間 15 週)	2 単位
授業時間 30 時間(毎週 2 時間 15 週) 事前事後学修 15 時間(毎週 1 時間 15 週)	1 単位

※大学において 1 単位の修得には「45 時間」の学修が必要であり、その際の「1 時間」は実際の 45 分に相当します。すなわち、「2 時間」は 90 分授業(1 時限)に相当します。

上記の表のとおり、2 単位の修得には、毎週「2 時間」の講義の前後に事前学修(予習)と事後学修(復習)を「4 時間」(例:事前学修「2 時間」+事後学修「2 時間」)することが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題(宿題)が課せられることがあります。大学では、常に事前・事後学修を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

6. 履修課程と履修上の注意

(1) 基幹教育科目

基幹教育科目は、総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。科目名や単位数、必修・選択・自由の区分、配当年次等については、「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」および本要覧に記載されています。

① 総合教養科目

総合教養科目は、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けることを目的としています。

② ゼミナール科目

ゼミナール科目には、「プロジェクト」、「高年次ゼミナール」及び「初年次ゼミナール」があります。プロジェクト科目は、知識を受け身で学ぶだけでなく、学生が能動的に課題に関わりながら学ぶことを重視しており、多様なプロジェクトや課題に取り組む中で、学んだ知識を活用しつつ仲間と協働し、自ら考え行動する姿勢を養います。これらの取り組みを通じて、社会に出て活躍するための基礎的な力やキャリア意識を培うことを目的としています。

高年次ゼミナールは、3年生以上を対象とし、講義に加え、異なる学部・学域に所属する履修生同士のディスカッションやプロジェクトの実施・発表を通して、他者の「問い」の視点も

参考にしながら自身の専門性に立脚した「問う力」を高めるとともに、社会の諸課題の解決に必要な基礎的な知識・技能・態度を身につけることを目的としています。

初年次ゼミナールは、高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身に付けることを目的としています。グループディスカッションを通じた課題発表等の自発的学修、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、他の専門分野の複数の学生と教員とによる多様な視点の交換を行うことで、能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的としています。

③ 情報科目

情報科目は、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルを身に付けることを目的としています。

④ 外国語科目

外国語科目には、「英語科目」と、「初修外国語科目」(朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語)があります。初修外国語について詳しくは、「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」および「初修外国語履修ガイド」を参照してください。

自分の第1言語(母語)を初修外国語科目として履修することはできません。日本語を第1言語(母語)としない学生は、特例科目(外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目)を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定されます。

⑤ 健康・スポーツ科学科目

生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的としています。

⑥ 基礎教育科目

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することが相応しい自然科学系科目を基礎教育科目として提供しています。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1・2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」の基礎教育(講義・演習・実験)を実施します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目的としています。

また、「情報」の基礎教育科目として、コンピュータやネットワークの動作原理、大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースと、情報検索のしくみ等の修得を目的としています。

(2) 専門科目

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、各学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技

法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由の区分は、所属学科等の履修課程表を参照してください。

(3) 副専攻科目

副専攻のために特別に開設した科目として副専攻科目があります。副専攻科目の受講については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

(4) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- ・ 「必修科目」…当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- ・ 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。(選択必修科目を含む。)
- ・ 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(5) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム(Moodle)等によりオンラインで行うことがあります。

(6) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短期間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については本学学生ポータル(UNIPA)により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず履修登録をしてください。

(7) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が授業担当教員を訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。大いに活用してください。(オフィスアワーについては、シラバスを参照してください。)

② その他相談窓口について

履修にあたっては、授業科目の内容説明(「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」やシラバス)を参考にし、履修課程表を十分に参照するとともに、履修や進路に関し相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

(8) 他学部・学域履修

他学部・学域で開講されている科目を履修することができる場合があります。ただし、獣医学部の卒業要件には含めることはできませんので注意してください。また、履修できる科目については大学 web サイト([ホーム>教育・学生生活>授業・履修>要覧](#))に掲載されている「他学部・他学域学生が履修可能な科目一覧」を確認したうえで、履修登録の方法は「履修登録の手引(学部・学域生用)」を参照してください。

(9) 科目名称について

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある場合は、以下のルールを表しています。

- ・ 「〇〇論 1、2～」

科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも 1 の履修が 2 の履修の前提条件になっているとは限りません。

- ・ 「〇〇論 A、B～」

科目内容に順序性がない科目群について使用します。

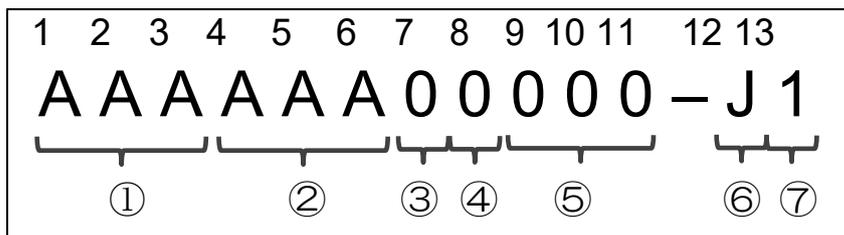
(10) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、各学部・学域の主な学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、他学部・学域(他学科・学類)科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主な学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。なお、個人的都合による理由で主な学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。

獣医学部の主な学びのキャンパスは、1 年次は森之宮キャンパス(後期は週 1 回りんくうキャンパス)、2 年次以降はりんくうキャンパスとなります。詳細は大学 Web サイト([ホーム>大阪公立大学について>キャンパス案内>主な学びのキャンパス](#))を参照してください。

7. 科目ナンバリングのルール

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた 13 桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。各授業科目の科目ナンバリングは、シラバスをご確認ください。詳細は大学 Web サイト([ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内](#))を確認してください。



8. 履修登録等

(1) 履修登録

① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで(4月上旬・9月中旬)に学生ポータル (UNIPA) より履修登録をする必要があります。

履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- ・ 履修課程表にある配当年次などによく注意して登録してください。試験で不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- ・ 配当年次に満たない年次の学生は、その科目を履修することはできませんが、配当年次を越える年次の学生は履修が可能です。ただし、所属する学科・学類によっては、履修年次を指定している場合があるので、注意してください。
- ・ 同一曜日に複数キャンパスで授業を履修する場合、キャンパス間移動の時間が確保できないと判断される場合は履修エラーとなりますので注意してください。
- ・ 同一曜日時限に、2 科目以上を重複して履修登録することはできません。
- ・ 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- ・ 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。
- ・ 卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により卒業・進級判定の際の単位に含むことができない場合があるので、履修登録時に教務

担当窓口に相談してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル (UNIPA) の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録確認・修正期間内に修正してください。

④ 履修中止について

履修登録の締め切り以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ・ 実際の授業の内容が公開されている『シラバス』と本質的に異なっている場合
- ・ 授業についていけないだけの知識不足が発覚した場合

※履修登録や履修中止における手続きの時期や方法など、詳しくは「履修登録の手引(学部・学域生用)」を参照してください。

(2) シラバス

シラバスには、各学部・学域のカリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割やシラバス等を確認し、自身の学修計画を立ててください。

9. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。

試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。

試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。

(3) 追試験・再試験

試験を欠席した理由が次の項目に該当する場合には、科目の開設部局 (各学部・学域または国際基幹教育機構) によっては追試験を行うことがあります。

- ① 学生が病気または負傷した場合

- ② 学生の親族が死亡した場合(2親等以内の親族または同居の親族に限る。)
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する者は、所定の期間内に欠席理由を証明する書類を添えて科目の開設部局に願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については科目の開設部局に問い合わせてください。

また、定期試験で不合格になった科目の再試験は原則実施しません。

10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、定められた基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。各評語の評価基準などは大学 Web サイト([ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内](#))を確認してください。履修登録した各科目の成績に GP(Grade Point)を割り当てて、その平均を取ったものを GPA(Grade Point Average)といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。

GPA は学期ごとに算出されます。GPA の算出方法は大学 Web サイト([ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内](#))から確認してください。

GPA の対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目(副専攻科目等の自由科目)、評語「N(認定)」の「単位認定された科目」、評語「P(合格)」の「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」は GPA から除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算 GPA が記載されます。

(2) CAP 制

学期内で履修する科目について事前・事後学修の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことを CAP 制(キャップ制)といいます。

1年次の履修上限は、全学で年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下と定められています。また、獣医学部では、2年次以降は年間60単位以下と定めています。

通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けされます。単位認定は最終開講学期です。

年次	登録できる単位数		
	前期	後期	年
1年次	25 単位以下	25 単位以下	50 単位未満
2年次以降	—	—	60 単位以下

原則として、卒業の所要単位数に算入されない科目(自由科目)は CAP 制の対象外となります。卒業の所要単位数に算入される科目の中で、例外的に CAP 制対象外となる科目もあります。詳しくは履修課程表を確認してください。

なお、成績優秀者に対しては、CAP 制が緩和されます。すなわち、ある学期の GPA が 3.00 以上であった場合、直後の学期の履修登録の CAP 制の上限が 6 単位引き上げられます。

1.1. 既修得単位等の認定

(1) 既修得単位の認定(再入学の場合を除く)

入学する前に大学、短期大学(外国の大学等を含む)または大学以外の教育施設において科目を履修し、修得した単位については、学部・学域等の履修課程に照らして有益と認められる場合に限り、合計 60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定されることがあります。該当者は、入学前までに各学部・学域教務担当へ申し出てください。

なお、他大学との単位互換・単位認定制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

(2) 外部試験等による外国語の単位認定

高い英語能力を持った学生を対象に、外国語科目(英語)の単位認定を行う制度があります。詳細については、「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」を参照してください。なお、認定された科目を履修することはできないので注意してください。

1.2. 定期試験受験心得

(1) 試験開始までに入室し、試験監督者の指示に従ってください。

(2) あらかじめ履修登録した科目のみ、受験することができます。

(3) 受験に際しては、必ず学生証(デジタル学生証は認められません(以下同様))を持参し、着席した机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に所属学部・学域教務担当窓口等で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しないことがあります。

(4) 試験を開始して 30 分経過後の遅刻者は受験を許可されません。

(5) 試験を開始して 30 分を経過しなければ退出は許可されません。

(6) 机上には、持ち込みを許可されたもの(教科書、ノートなど)がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。

(7) 携帯電話などの電子機器は、特に許可された場合を除き、電源を切り、かばんの中に入

てください。また、音を発する物(たとえば時計のアラーム)などで、他人に迷惑をかけてはいけません。

- (8) 受験中、学生相互間の物品(筆記具を含む)の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。
- (9) 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。
- (10) 答案用紙は試験監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙も全て提出してください。配付されたものは、許可されたもの以外は持ち帰ってはいけません。
- (11) 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。
- (12) 対面試験と同様に遠隔試験についても一切の不正行為を禁じます。
- (13) レポート試験について、次の行為に対して不正行為とみなします。
 - ① 他者のレポートの一部または全部を書き写す行為
 - ② 他者にレポート作成を依頼する行為
 - ③ 他者に依頼されて本人の代わりにレポートを作成する行為
 - ④ レポートのデータや資料等を捏造または改ざんする行為
 - ⑤ その他、上記の不正行為に準ずる行為
- (14) 試験(遠隔試験、レポート試験も含む)で不正行為を行った学生に対しては、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とします。
- (15) 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分(訓告、停学、退学)の対象になる事もあります。
- (16) いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。

1 3. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

異議申立を行う場合、学生ポータル(UNIPA)に掲載する申立期間内に、各科目の開設部局(各学部・学域教務担当または森之宮学務室教務担当)へ申し出てください。

なお、これは成績評価に納得がいかない者が、問い合わせ、または異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

1 4. 休講・欠席について

- (1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

取り扱いの詳細は、以下のリンクより大学 Web サイトを確認してください。

[\(ホーム>教育・学生生活>気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講およ](#)

び定期試験の延期措置について

(2) 授業欠席時の取り扱いについて

授業を欠席する場合は、大学 Web サイト([ホーム](#)>[教育・学生生活](#)>[授業・履修](#)>[学事日程・授業関係](#))を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。欠席理由(病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等)の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。

なお、以下の場合には特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症(季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等)に罹患した場合
- 裁判員制度に伴う裁判に出席する場合
大学 Web サイト([ホーム](#)>[教育・学生生活](#)>[授業・履修](#)>[学事日程・授業関係](#))を確認してください。

15. 副専攻

副専攻とは、所属する学部・学科／学域・学類で卒業をめざす主専攻に加え、学部・学科／学域・学類課程の区分を超えて、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度です。所属する学部・学科／学域・学類により履修可能な副専攻が変わります。

詳細は、「副専攻ガイド」を参照してください。ただし、副専攻のために修得した単位については、進級要件および卒業要件に含まれないことがあるので注意してください。

16. 他大学との単位互換・単位認定制度

- (1) 大学コンソーシアム大阪等との単位互換協定に基づいて他大学の授業を履修することができます。毎年度教育推進課から募集の案内があります。詳細は各コンソーシアム等の Web サイトを確認してください。なお、修得した科目および単位は、本学で履修し、単位を修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (2) 本学に在学中に外国の大学との協議等に基づき、当該大学の科目を履修し、単位を修得した場合は、教授会等の承認を経て本学において修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (3) 他大学との単位互換および単位認定により認定される単位の上限は 60 単位までです。また、入学前の既修得単位として認定された単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

17. 転学部（学域）・転学科（学類）等

在籍中に特別の事情で学部・学科等を変更したい人のために、転学部・転学科等という制度があります。ただし、転学部・転学科等を認めていない学部もあります。

なお、転学部・転学科等を希望する学生を受け入れる学部・学科等の事情（定員超過など）により、募集しない場合があります。また、受け入れ先の学部・学科等が定める要件（成績・修得単位数など）を満たす必要があります。転学部等の募集については、毎年9月に学生ポータル（UNIPA）にて掲示します。詳細については、各学部・学域教務担当に問い合わせてください。

18. 前期終了時の卒業

本学に修業年限（6年）以上在学し、学年の前期終了時に卒業要件を満たし、あらかじめ定められた期日までに卒業を申し出た者については、教授会の議を経て、前期終了時に卒業が認められます。卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により卒業・進級判定の際の単位に含むことができない場合があるので、履修登録時に教務担当窓口にご相談してください。

19. 学籍について

(1) 休学

病気その他やむを得ない理由で引き続き2ヶ月以上修学できない場合は、「休学願」を提出することにより、休学が認められることがあります。ただし、休学はやむを得ない事由により復学を前提として行うものです。

なお、「休学願」の提出は休学を開始する日の前日（前期からの休学の場合は3月31日、後期からの休学の場合は9月23日）までに行わなければなりません。

また、休学を延長する場合も、上記と同様の手続きを行う必要があります。休学期間は、通算して2年を超えることができません。休学期間は在学年数に算入しません。

また、学年進行の時期は4月です。

(2) 復学

休学期間中にその事由が消滅した場合は、申し出て復学することができます。復学するためにはその学期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 留学

留学を願い出る場合は、担当教員等による指導助言を受けた上で、留学を開始する日の前日までに「留学願」を提出しなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する場合は、前期をもって退学する場合は前期末までに、後期をもって退学する場合は後期末までに「退学願」を提出しなければなりません。学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければなりません。

(5) 除籍

指定された期日までに授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に所定の単位を修得できなかった場合で「退学願」の提出のないときは除籍となります。

(6) 再入学

退学または除籍された者が、再入学を願い出た場合は、教授会の審議を経て再入学が許可されることがあります。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から2年以内に限りです。

原則、休学、復学、退学は学期末の1か月前までに、担当教員等による指導助言を受けたいと願い出るようにしてください。急な事情により願い出が必要となった場合は、すみやかに各学部・学域教務担当へご相談ください。

20. 修学上の配慮・支援について

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターまたは各学部・学域アクセシビリティ支援委員に申し出てください。

21. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入

学ぶ力(学習自己管理能力)を高めること、すなわち、

- ・ 目標を意識しながら、学ぶこと
- ・ 自分自身の学びを見つめる(振り返る)目を養うこと
- ・ 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、学生は半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ(学修記録)への記入を行ってください。「ていら・みす」へは、学生ポータル(UNIPA)からアクセスしてください。

2.2. 卒業研究履修資格（進級要件）

3年次に進級して3年次以降の専門科目を履修するには、2年次終了時までには獣医学部が指定する次の表の単位を修得する必要があります。

獣医学部の指定する進級要件

学科	進級要件(2年次終了時までには修得すべき単位)
獣医学科	卒業に必要な基幹教育科目の33単位(基礎教育科目の選択2単位を除く)と、専門科目における必修科目の55単位(33科目)を加えた合計88単位のうち、すべての実験・実習を含む82単位以上。

*副専攻科目で、進級および卒業要件に含まれない科目は含めません。

2.3. 卒業資格（卒業要件）

- (1) 獣医学部の修業年限は6年となっています。本学部に修業年限以上在学し、次の表の単位を修得した学生は、卒業が認定され、学士の学位が授与されます。
- (2) 獣医学部の在学年限は12年とし、それを超えて在学はできません。ただし、休学期間は在学期間に算入されません。

獣医学部における卒業に必要な単位(要卒単位)

科目		必要単位数		
基幹教育科目	総合教養科目	4単位	他6単位を 選択 *1	
	ゼミナール科目			プロジェクト、高年次ゼミナール
		初年次ゼミナール		1単位
	情報科目	2単位		
	外国語科目	英語科目		12単位
		初修外国語科目		—
	健康・スポーツ科学科目	2単位		
	小計			27単位
	基礎教育科目	必修		6単位
		選択		2単位
小計		35単位		
専門科目	必修	172単位		
	選択	2単位		
合計		209単位		

*1 基幹教育科目(基礎教育科目除く)については、各科目区分で指定された必修及び選択必修の単位数を21単位修得するとともに、修得した科目以外で他6単位以上修得する必要があります。履修課程表をあわせて確認してください。

*2 副専攻科目等、卒業要件に含まれない科目(自由科目)は、上記の要卒単位に含めることができません。

24. 各種資格（受験資格）

(1) 獣医学共用試験について

全国共通の「獣医学共用試験」が平成 28 年度から実施されています。「獣医学共用試験」は、4 年次後期以降の「参加型実習（参加型臨床実習）」を履修するために必要な能力を有しているかどうかを評価するもので、本学では 4 年次の前期終了時に受験します。本試験は、知識の理解度をコンピュータで問う CBT（Computer-Based Testing）、態度・基本的臨床技能を獣医療面接・身体診療により問う OSCE（Objective Structured Clinical Examination）からなります。詳細は、「獣医学教育支援機構」のウェブサイトを参照してください。

※獣医学教育支援機構（<https://veteso.or.jp/exam/>）

「獣医学共用試験」の出題範囲に該当する科目については、獣医学部の履修課程表に指定されています。これらの科目を履修し、単位を修得しておかないと受験できません。なお、この「獣医学共用試験」には受験料が必要となります。「獣医学共用試験」の日程や受験料の詳細については、決まり次第お知らせします。

(2) 免許等の資格取得

獣医学部で取得できる主な資格を以下に示しています。

学科	取得できる免許資格	取得できる任用資格	受験することができる主な資格
獣医学科	家畜人工授精師*	食品衛生管理者、食品衛生監視員、家庭用品衛生監視員、薬事監視員*、環境衛生監視員、飼料製造管理者、狂犬病予防員*、食鳥検査員*、種畜検査員*、と畜検査員*	獣医師

*獣医師免許取得に伴う資格

25. 生成 AI の利活用に関する学生向けガイドライン

本学では、学業や研究において生成 AI を有効かつ安全に活用できるよう、ガイドラインを作成しました。ガイドラインの内容をよく確認の上、適切な場面で責任を持って活用してください。

▶[生成 AI の利活用に関する学生向けガイドライン](#)

26. 基幹教育科目（基礎教育科目を除く） 履修課程表

科目区分	科目名	単位数	配当年次及び1週の時間数						備考	
			1年次		2年次		3～6年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基幹教育科目	総合教養科目	(国際基幹教育機構開設科目要覧参照)								
	ゼミナール科目	プロジェクト、高年次ゼミナール (機構開設科目要覧参照)								
		○ 初年次ゼミナール	1	1						
	情報科目	○ データエンジニアリング・AI基礎	2	*					CAP制対象外	
	外国語科目	英語科目	○ University English1A	2	2					
			○ University English1B	2	2					
			○ University English2A	2		2				
			○ University English2B	2		2				
			○ University English3A	2			2			
			○ University English3B	2				2		
		(その他機構開設科目要覧参照)								
		初修外国語科目	(朝・中・露・独・仏)入門1	2	2					週1コース
	(朝・中・露・独・仏)入門2		2		2				週1コース	
	(その他機構開設科目要覧参照)									
	健康・スポーツ科学科目	△ 健康・スポーツ科学概論	2	2						
△ 健康・スポーツ科学実習		2		2						

注1 科目の○印は必修科目、△印は選択必修科目を表します。

注2 科目名、配当期・配当年次は、変更されることがあるため、最新の時間割等を確認してください。

注3 (朝・中・露・独・仏) はそれぞれ 朝：朝鮮語 中：中国語 露：ロシア語 独：ドイツ語 仏：フランス語 を指しています。

注4 英語以外の外国語科目(朝・中・露・独・仏) については、当該年度に1言語しか履修できません。

注5 第一言語(母語)ではない初修外国語を入学以前に学習したことがある人は、入学前に申請して面接試験等に合格すれば、入門初級履修免除制度を利用して1年次から2年次科目を受講することができます。詳しくは国際基幹教育機構に問い合わせてください。

注6 基幹教育科目は、森之宮キャンパスで開講されます。ただし、University English 3A・3Bについては、りんくうキャンパスで開講されます。

注7 配当年次及び1週の時間数の*印は開講期を表します。

27. 基礎教育科目 履修課程表

科目区分	科目名	単位数	配当年次及び1週の時間数			
			1年次		2～6年次	
			前期	後期	前期	後期
基 幹 教 育 科 目	数 学 1	2	2			
	数 学 2	2		2		
	統 計 学 基 礎 1	2	2			
	○ 統 計 学 基 礎 2	2		2		
	基 礎 力 学 C	2	2			
	基 礎 電 磁 気 学 C	2		2		
	基 礎 物 理 学 実 験 1C	2		4		
	基 礎 無 機 ・ 物 理 化 学	2	2			
	○ 基 礎 有 機 化 学	2		2		
	基 礎 化 学 実 験	2	4			
	○ 生 物 学 2	2		2		
	地 球 学 入 門	2		2		
	地 球 学 実 験 C	1		2		

注1 科目の○印は必修科目を表します。それ以外は選択科目です。

注2 科目名、配当期・配当年次は、変更されることがあるため、最新の時間割等を確認してください。

注3 基礎教育科目は、森之宮キャンパスで開講されます。

28. 専門科目 履修課程表

	科目名	単位数	配当年次及び1週の時間数												備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
○ 獣医学概論	2	2															◎
○ 小動物基礎臨床実習	1	*															◎集中
○ 基礎実験動物学	1		1														◎
○ 獣医体験演習	1		1														◎
○ 野生動物医学Ⅰ	1		*														◎集中
○ 農業経済学	1	*	*														◎集中
○ 動物生産学概論	1	*	*														◎集中
○ 畜産学実習	2	*	*	*	*												◎集中
○ 獣医生化学A	2			2													◎
○ 実験動物学・遺伝育種学	1			1													◎
○ 獣医療倫理・動物福祉学	2			2													◎
○ 獣医生理学A	2		2														◎
○ 実験動物学実習	1			2													◎
○ 獣医解剖組織学A	2		2														◎
○ 獣医解剖組織学B	2			2													◎
○ 獣医組織学実習	2			4													◎
○ 獣医生理学実習	2			4													◎
○ 獣医細菌学	2			2													◎
○ 獣医環境科学	1			1													◎
○ 獣医公衆衛生学	1			1													◎
○ 獣医ウイルス学	2			2													◎
○ 獣医生化学B	1				1												◎
○ 発生理学	1				1												◎
○ 獣医病理組織学実習	2				4												◎
○ 獣医薬理学A	2				2												◎
○ 獣医病理学A	2				2												◎
○ 獣医生理学B	2			2													◎
○ 獣医解剖学実習	2				4												◎
○ 獣医生化学実習	2				4												◎
○ 毒性学	2				2												◎
○ 獣医微生物・免疫学実習	3				6												◎
○ 獣医免疫学	2				2												◎
○ 獣医寄生虫学	2				2												◎
○ 獣医病理診断学実習	1					2											◎
○ 獣医薬理学B	1					1											◎
○ 獣医病理学B	2					2											◎
○ 獣医薬理学実習	2					4											◎
○ 獣医衛生学	2					2											◎
○ 獣医寄生虫学実習	2					4											◎
○ 人獣共通感染症学	2					2											◎
○ 獣医伝染病学A	2					2											◎
○ 獣医伝染病学B	2					2											◎
○ 食品衛生学	2					2											◎
○ 食品衛生検査学実習	1					2											◎
○ 毒性学実習	1					2											◎
○ 獣医外科学総論	1					1											◎
○ 獣医手術学	1					1											◎
○ 獣医内科学総論	1					1											◎
○ 獣医繁殖学A	2					2											◎
○ 獣医麻酔学	1					1											◎
○ 馬臨床床学	2					2											◎
○ 生産動物臨床実習	2						*	*									◎集中
○ 馬臨床実習	1						*										◎集中
○ 学外特別実習	1					*	*										◎集中 (CAP制対象外)
○ 獣医臨床薬理学	1						1										◎
○ 獣医衛生学実習	2							4									◎

専門科目 (りんくうキャンパスで開講。ただし一部科目を除く)

	科目名	単位数	配当年次及び1週の時間数												備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
○ 獣医公衆衛生学実習	2						4									◎
○ 魚病学	1						*									◎
○ 獣医基礎放射線学	1						1									◎
○ 獣医腫瘍学	1						1									◎
○ 獣医基礎放射線学実習	1						2									◎
○ 臨床基礎実習	1						*	*								◎
○ 獣医臨床病理学	1						1									◎
○ 獣医血液病学	1						1									◎
○ 獣医循環呼吸器病学	2						2									◎
○ 獣医学関連法規	1						1									◎
○ 画像診断学	2						2									◎
○ 獣医繁殖学実習	2						4									◎
○ 家畜栄養学・管理学	1						*	*								◎集中
○ 伴侶動物臨床栄養学	1						1									◎
○ 獣医繁殖学 B	2						2									◎
○ 伴侶動物内科実習	2						4									◎
○ 野生動物医学 2	1						*	*								◎集中
○ 獣医皮膚病学	1								1							◎
○ 獣医泌尿器病学	1								1							◎
○ 獣医内分泌代謝病学	2								2							◎
○ 獣医整形外科学	2								2							◎
○ 伴侶動物外科実習	2								4							◎
○ 画像診断学実習	2								4							◎
○ 獣医消化器病学	2								2							◎
○ 獣医感覚器病学	1								1							◎
○ 獣医神経病学	1								1							◎
○ 生産動物臨床学	3						*	*								◎
○ 動物行動治療学	1								*							◎集中
○ 獣医軟部組織外科学	1								1							◎
○ 生産獣医療学実習	2								*	*						●集中
○ 産業動物診療実習	4								*	*						●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 A	4								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 B	4								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 C	2								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 D	2								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 E	4								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物夜間・救急獣医療実習	1								*	*	*					●集中
○ 伴侶動物獣医療実習 F	1								*	*	*					●集中
○ と畜場実習	1								*	*						●集中
○ 食品加工実習	1								*							●集中
○ 公務員獣医師インターンシップ	1								*	*						●集中
○ 食品安全科学	1								*							◎集中
○ 創薬学概論	1											*				集中
○ 動物行動解析学	1											*				集中
○ 獣医環境病理学	1											*				集中
○ 疾患モデル動物学	1											*				集中
○ 病性鑑定実習	1											*				
○ 海外インターンシップ	1											*				集中 (CAP制対象外)
○ 先端的動物診断治療学総論	1											*				集中
○ 大動物野外診療実習	1					*	*									集中 (CAP制対象外)
○ 獣医学演習	1													*		
○ 卒業研究	12								*	*	*	*	*	*	*	

注1 科目名称、開講期・配当年次は、変更されることがあるため、最新の時間割等を確認してください。
注2 配当年次及び1週の時間数の*印は開講期を表します。開講キャンパスに注意してください。
注3 科目の○印は専門科目における必修科目を表します。それ以外は選択科目です。
注4 備考の"集中"は集中講義・集中実習を表します。
注5 備考の◎印は、これらの科目を履修し、単位を修得していないと獣医学共用試験は受験できません。
注6 備考の●印は参加型実習（参加型臨床実習）の科目で、獣医学共用試験に合格しないと受講できません。

大阪公立大学 獣医学部

りんくうキャンパス事務所

TEL 072-463-5091(直通)

EMAIL gr-kyik-vet@omu.ac.jp